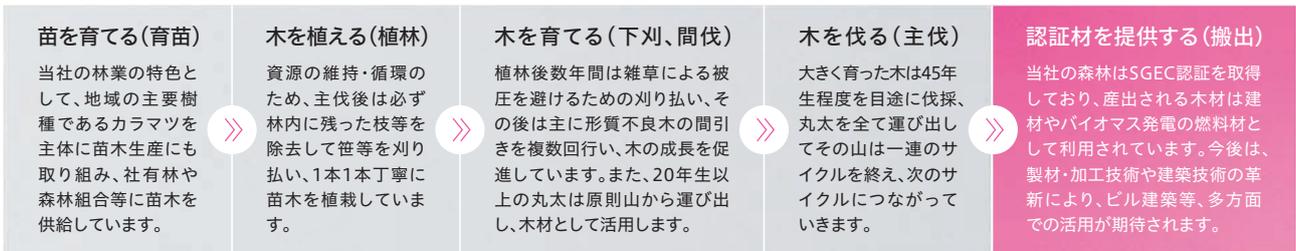


北海道の森づくり

北海道ニッタは「十勝の森を通して全ての生き物が幸せに暮らす次の100年をつくる」ことを目標としています。次世代に向けた持続可能な森林経営とサービスを提供することに加え、ひたむきで長期的な「森づくり」を通じて、気候変動への対応、生物多様性の保全、水源涵養、災害防止等の社会課題に対して、森林が持つ公益的機能を最大限発揮できるよう、取り組んでいきたいと考えています。当社の森づくりは、森林資源を次世代に引き継いでいくために、森づくりのサイクルを継続的に実施しており、特に苗木から育てることを重視して取り組んでいます。

▼森づくりのサイクル



苗木づくりは森づくりの要です。当社は年間約50万本の苗木を自社生産し、自社森林への植林に加え、森林組合を通じて近隣業者にも提供しています。苗木は天候の影響を受けやすく、すぐに調達できないため、新規参入や小規模事業者には難しい分野です。当社は種から伐採まで一貫して林業を行い、苗木の供給を通じて林業の活性化と地域貢献に取り組んでいます。

生物多様性に関する調査

ニッタの所有する天然林においては、安全上の懸念や森林保護の観点から必要と考えられる場合を除き、極力伐採等は行わず、多様な動植物の貴重な棲み家を守るため適切に保全・管理をしています。

また2021年度より生物多様性調査を実施する中、当社の森林資源には国や北海道が指定する希少種や絶滅危惧種の生息が確認されています。



ミズナラの大径木

調査ターゲット	2021年度				2022年度				2023年度				2024年度				2025年度			
	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
植物	← 調査		→ リスト化																	
哺乳類					← 調査		→ リスト化													
鳥類					← 調査		→ リスト化													
昆虫													← 調査		→ リスト化					
その他									← 追加ターゲットの検討								← 必要に応じ追加調査			

企業価値向上に向けた地域社会とのかかわり

北海道ニッタでは、林業を通じた地域社会との関係性構築だけでなく、木育活動やマルシェ等ファミリーが気軽に参加できるイベントを開催しています。多岐にわたる活動や情報発信を通じて「ニッタの森」のファンを育てること。そして、自然保護や持続可能社会づくりに貢献する企業ブランドを構築し、ニッタグループのさらなる企業価値向上に貢献する取り組みを推進します。

●Instagram「森と笑う」

2025年開設。地域イベントの発信をはじめ、事業活動の報告、スタッフ紹介等を通じて森林経営や森づくりへの興味や理解を促すとともに、地域社会との距離を縮めファンづくりを目指す。



詳細は
Instagramにて
ご覧いただけます。

●四季のイベント 「森とひろば」

地域の方々が家族で気軽に参加できるような自然に触れ合えるイベントを企画運営し、地域社会や住民との交流を図る。



文化財を未来へつなぐ 琴ノ浦温山荘園の保全と運営



温山荘園の成り立ち

温山荘園は、創業者の新田長次郎が大正初期から昭和にかけて、和歌山県海南市琴ノ浦の海沿いに造園した庭園です。1万4千坪の敷地には、潮入式池泉回遊庭園や主屋、茶室等の伝統的な和風建築が点在し、個人庭園としては並外れた規模を誇ります。造園当初は、長次郎の健康維持のために使用されていましたが、長次郎の在世中に一般開放されました。1998年（平成10年）に文化庁より「登録有形文化財」に登録され、2010年（平成22年）には庭園が国指定の名勝に、建造物は重要文化財に指定されました。また2011年（平成23年）には県より公益財団法人として認定されています。



琴ノ浦温山荘園の
代表理事に
お話を伺いました



公益財団法人 琴ノ浦温山荘園 代表理事
名古屋工業大学 名誉教授
麓 和善

当園の保護には、建築家、庭師、大工、左官等、近代和風建築に用いる高度な技術が不可欠です。温山荘園を維持・保存すること、それは日本独自の貴重な伝統技術を後世へ継承していくための社会貢献にもつながります。

長次郎の感性が息づく庭園文化の結晶

当園は、新田長次郎が自ら探し求めた、立地と景観の素晴らしさが特長の庭園です。園内から海を見る景観も、また海側から見た庭や建物の景観も、実に美しく荘厳です。当時の実業家たちは、園遊会等を通じて庭園や建築に対する素養を深めており、そのような時代的な趣味・嗜好が温山荘園にも反映されています。長次郎は、自身が思い描く庭園美や建築美を造形するべく、こだわりや遊び心を随所に施しました。建築家任せにせず、庭師や大工、左官職人らに具体的な要求をし、職人たちもそれに応えようと、持てる技術を駆使して実現させたのです。

温山荘園の独特な点として、庭園の景観を最大限に楽しむために壁や柱を極限まで排した主屋や、海水を引いた大きな池が挙げられます。建材には天然木ではなく合板、池にはセメントモルタルで塗装した擬石を使用する等、あえて天然の素材を使わず、高度な技術で人工物を創り上げるという、長次郎の「ものづくり精神」がいかに発揮されたものです。温山荘園は、高度な製品づくりに挑むための「試験場」でもあったと考えられ、長次郎の個性と独創性が生きる、まさに唯一無二の存在です。



価値継承のための取り組み

温山荘園は国の重要文化財に指定されており、その価値を守り続けることが義務となります。重要文化財として審議される際には、建造物や庭園の価値や特長を詳細に調査したうえで、膨大な図書資料を作成し、国に提出しています。その資料には価値となる根拠が明確かつ詳細に記され、その資料に基づいて「価値を守る」取り組みを行います。「釘一本打ってはいけない」等の厳しい規制はなく、価値存続のための改修は認められます。例えば、トイレを水洗にする等生活に必要な最低限の改修や、耐震補強も重要です。耐震補強に関しては、特に温山荘園は壁や柱が少ないため、建物の特長を残したまま補強していくためには、現代の建築構造力学の粋を集めたアイデアや技術が必要となります。築100年以上経過するため、現在、大規模改修も視野に入れた計画を検討しています。

次世代へつなぐ庭園の魅力

私がこれまでかかわってきた建造物や文化財の中でも、温山荘園は随一の個性や魅力、そして価値を持っていると感じます。重要文化財を保護する活動を続けながらも、今後はそれ以上の取り組みとして、もっと広くに温山荘園の価値や魅力を伝えていくことが必要だと考えます。見学だけでなく、実際に交流や園遊の場として活用する等、価値を損なわない中で利用いただく方法がないかと思案中です。使ってこそ生きる価値が、当園にはあります。文化財保護は大きなコスト負担となり、ニッタグループの支援なしでは不可能です。その支援に応えるためにも、温山荘園をニッタグループのブランドイメージや企業価値向上につなげていきたい。その想いで、公益財団法人のメンバーでもあるニッタグループの社員とともに活動していく所存です。



森林資源の維持・保全による地球環境問題への貢献

ニッタ株式会社は1906年に櫛の樹^{かしわ}を求めて北海道十勝地方へ進出し、以来100年以上にわたり、育苗・植林・間伐・伐採等の森林事業を行ってきました。当時と変わらず今も「森林を通じた社会貢献」を大切にしています。

●次世代に向けた取り組み

当社グループは、森林事業の一環として植林に必要な苗木の生産を行っています。苗木生産農家の減少が著しい中、北海道地区における苗木の安定供給と効率的な苗木生産を行うことで地域に貢献しています。

また、次世代に向けた取り組みとしてクリーンラーチ（いわゆるエリートツリー）の採種園も造成しています。この樹木は一般の樹木より著しく成長が早く、建築材としての需要だけではなく、将来のCO₂吸収源として期待が高まっています。

本格的な苗木の生産までにはまだ十数年を要しますが、地道な活動を続けていきます。



クリーンラーチ(エリートツリー)の採種園

●地域とのコミュニケーション

社有林が存在する北海道では、森林と人との関係を主体的に考えることができる人材を育成しようと、北海道独自の「木育」という活動に力を入れていて、各方面で活動を行っています。そこで当社でも、地域との関係を強いものにする方策の一環としてその木育活動に協力し、独自の施策を実行し、ここ数年で行った具体的な活動は以下の通りです。

以下の活動の他、地域の方々に、森林に対して興味を持ってもらえるような活動を、関係各方面と協力しながら数多く行っています。今後も引き続き積極的な活動を展開し、一人でも多くの地域の方々に、森林をメインとした自然環境に興味を持っていただけるよう、鋭意努力していきます。

植林・枝打ち 研修場の協力

製材や建築等に携わるボランティアによる植林や枝打ち研修に提供



アイヌ団体への 樹皮提供

先住民族であるアイヌの方々が祭祀で着用する衣装の原料として用いられる樹木の皮を提供



若手林業就業者の 勉強の場を提供

北海道が主催する現地研修に社有林を提供



北海道の研究協力

北海道が研究する新しい技術の試験研究地として社有林を提供



軽労化試験の協力

軽労化対策として各種企業・団体等が取り組む機械化の現地試験用に社有地を提供



地元小学校での 社会科授業

社会科授業の一環として、森林管理教育の実施

